

景況レポート

(11月分・情報連絡員80名)

景況DI値が16年ぶりにプラスに転じる

～消費税増税前のかげ込み需要が影響～

【概況】11月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが26.6%(前月調査23.8%)、「悪化」が25.3%(同27.5%)で、業界全体のDI値は1.3となり、前月調査と比較して5.0ポイント上回った。景況DI値は平成9年3月以来、16年ぶりのプラスとなった。

内訳として、製造業全体のDI値は-16.1で前月調査と比較して22.4ポイント下回った。非製造業全体のDI値は、12.5で前月調査と比較して22.9ポイント上回った。

消費税増税を控えて、民間投資や一般住宅建築、新車をはじめとする高額商品購入の動きが顕著となり、売上や販売単価が上昇する一方で、資材の値上がり、職人不足、工期の延長といった現象が見られる。

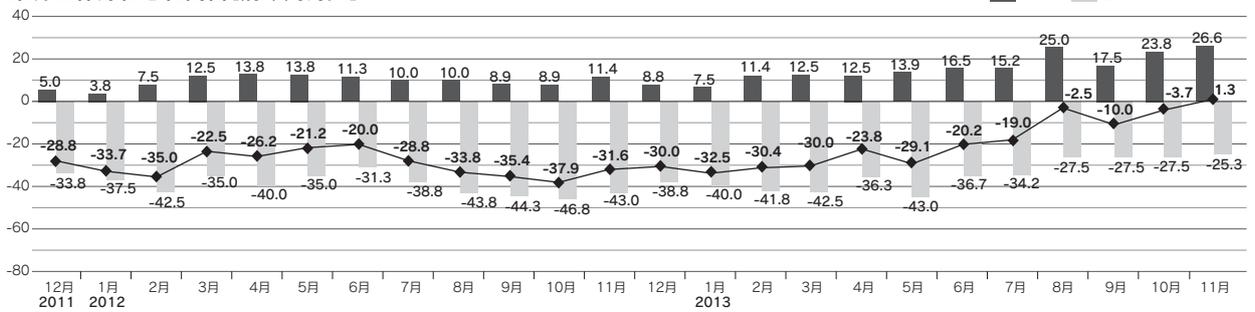
なお、原油価格の高騰や円安等により、原材料や資材、燃料の高騰で収益の確保に苦勞する声や、消費税増税後の受注減を不安視する声が聞かれ、受注が増加しても、人材、設備への投資に慎重になっている姿勢も窺える。
(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☔	☁	☔	☔	☔
非製造業	☀	☀	☁	☔	☁	☁

【凡例】
 ☀ 快晴 30以上
 ☀ 晴れ 10以上 30未満
 ☁ 曇り △10以上 △30未満
 ☔ 雨 △30以上 △10未満
 ☔ 雷雨 △30未満
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

- 豆腐油揚製造** 円安の影響で原料大豆の価格がジワジワと値上がり、経営環境が劣悪になっているため、製品価格の値上げなしではやっていけない状況にある。
- ニット** 11月は例年どおりの閑散期であった。通常であれば、アパレルメーカーが春物の原材料投入を早めてくれるが、今年は遅れている。
- 木材・木製品**
 - ・構造材、造作材とも旺盛な需要があるが、材料となる原木の調達が間に合わず納期が延びる状況が続いている。なお、原木は品不足の状況が解消されず、高値となっている。
 - ・国産合板の出荷状況は引き続き好調で、在庫水準が低くなっており、特に、長尺物に不足感がある。価格面では、問屋の再販価格にブレーキ感があるものの、メーカー価格が先行き強気の予想から上昇している。また、輸入合板の荷動きも回復基調となっている。
- 鉄鋼** 各社1月頃までは手持ち工事を確保しているようだが、冬場の減少は避けられないので先行きに不安を感じている。
- 自動車販売** 11月の新車販売台数は、登録自動車が2,138台(前年同月比110.7%)、軽自動車が2,461台(同130.8%)で、合計4,599台(同120.6%)であった。今月も、軽自動車が登録車を上回った。
- 商店街** 業種によって差があるが、総体的に販売額は減少しており、前年実績確保がやっとの状況が続いている。秋田DCによる当商店街への波及効果は感じられなかった。
- 建築設計** 受注状況は上向き傾向にあるが、資材単価や労務費の上昇もあり、先が読めない状況である。
- 旅館** 施設によって業況に差があるが、秋田DCが集客アップに繋がっている。
- 管工事** 資材価格や労務費の上昇、人手不足などにより、入札の不調件数が増加している。
- 型枠工事** 本年度は消費税増税前のかげ込み需要的な民間工事があり、全体的に忙しい傾向で各地区とも単価が上昇し、経営状況が改善している。
- トラック** 貨物の種類を問わず輸送量が増加しているが、燃料価格が高止まりのため、収益は逆に悪化している。